

日本組織適合性学会
平成 15 年度 決算報告書

自 平成 15 年 4 月 1 日
至 平成 16 年 3 月 31 日

| (収入の部) | 予 算 | 決 算 | 差 異 |
|-------------|------------|-----------|----------|
| 会 員 年 会 費 | 3,600,000 | 3,156,300 | -443,700 |
| 前 受 け 金 | 250,000 | 278,000 | 28,000 |
| 学 会 誌 広 告 費 | 1,150,000 | 920,000 | -230,000 |
| 学 会 誌 販 売 | 150,000 | 149,340 | -660 |
| 利 息 | 50 | 976 | 926 |
| 当 期 収 入 合 計 | 5,150,050 | 4,504,616 | -645,434 |
| 前 年 度 繰 越 金 | 5,469,015 | 5,469,015 | 0 |
| 収 入 合 計 | 10,619,065 | 9,973,631 | -645,434 |

| (支出の部) | 予 算 | 決 算 | 差 異 |
|-------------|------------|-----------|------------|
| 大 会 援 助 金 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 |
| 学 会 誌 作 成 費 | 3,150,000 | 2,478,379 | 671,621 |
| 旅 費 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 通 信 費 | 200,000 | 264,270 | -64,270 |
| 事 務 費 | 50,000 | 79,353 | -29,353 |
| 会 議 費 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 事 務 委 託 費 | 500,000 | 489,510 | 10,490 |
| 当 期 支 出 合 計 | 5,150,000 | 3,311,512 | 1,838,488 |
| 次 期 繰 越 金 | 5,469,065 | 6,662,119 | -1,193,054 |
| 支 出 合 計 | 10,619,065 | 9,973,631 | 645,434 |
| 当 期 収 支 差 額 | 50 | 1,193,104 | -1,193,054 |

繰越金内訳(TFB 表彰基金残金を含む)

(内訳 定期: 2,000,961 普通: 2,911,041 事務センター: 1,942,428 現金: 7,689)

平成 15 年度日本組織適合性学会会計を監査し、適正であったことを認めます。

平成 16 年 9 月 日本組織適合性学会 監事

片桐 一
吉田 孝人

日本組織適合性学会
平成 15 年度 認定制度決算報告書

自 平成 15 年 4 月 1 日
至 平成 16 年 3 月 31 日

| (収入の部) | 予 算 | 決 算 | 差 異 |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 申請料(指導者) | 600,000 | 550,000 | 50,000 |
| 申請料(技術者) | 240,000 | 240,000 | 0 |
| 講習会参加費 | 50,000 | 3,480 | 46,520 |
| QC ワークショップ | 200,000 | 600,000 | -400,000 |
| 利 息 | 30 | 29 | 1 |
| 当期収入合計 | 1,090,030 | 1,393,509 | -303,479 |
| 前年度繰越金 | 2,821,513 | 2,821,513 | 0 |
| 収入合計 | 3,911,543 | 4,215,022 | -303,479 |

| (支出の部) | 予 算 | 決 算 | 差 異 |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 事業経費 | 200,000 | 72,765 | 127,235 |
| 実技研修費委託費 | 100,000 | 43,074 | 56,926 |
| 会場費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 講師費 | 200,000 | 60,000 | 140,000 |
| QC ワークショップ | 200,000 | 116,959 | 83,041 |
| 会議費 | 40,000 | 60,074 | -20,074 |
| 旅 費 | 200,000 | 68,800 | 131,200 |
| 通信費 | 30,000 | 16,850 | 13,150 |
| 事務費 | 20,000 | 30,220 | -10,220 |
| 当期支出合計 | 1,090,000 | 468,742 | 621,258 |
| 次期繰越金 | 2,821,543 | 3,746,280 | -924,737 |
| 支出合計 | 3,911,543 | 4,215,022 | -303,479 |
| 当期収支差額 | 30 | 924,767 | -924,737 |

繰越金内訳(内訳 普通: 3,738,389 現金: 7,891)

平成 15 年度日本組織適合性学会認定制度会計を監査し、適正であったことを認めます。

平成 16 年 9 月 日本組織適合性学会 監事

片桐 一
吉田 孝人

平成 15 年度 TFB 基金決算報告書

自 平成 15 年 4 月 1 日
至 平成 16 年 3 月 31 日

| 項 | 目 | 金 | 額 |
|--------|---|---------|---|
| 収 | 入 | 700,000 | |
| 支 | 出 | 500,000 | |
| 当期収支差額 | | 200,000 | |
| 次期繰越金 | | 200,000 | |

繰越金内訳(普通預金: 200,000)

平成 15 年度日本組織適合性学会 TFB 基金会計を監査し、適正であったことを認めます

平成 16 年 9 月 日本組織適合性学会 監事

片桐 一
吉田 孝人

日本組織適合性学会誌 MHC の投稿規定

1. 投稿規定

1.1. 原稿様式

提出原稿がそのまま電算写植で印刷できるように、原稿は全て、コンピューターのフロッピーディスクとA4サイズでプリントアウトしたものの両者を提出する。ソフトはMSWordとする。字体、サイズ、行の字数、行間、などの体裁は自由とする。また、図表については、写植でそのまま掲載できるものを提出するが、挿入箇所を本文に指定する。図については天地を明示する。印刷の際に、縮小または拡大する場合があるので、考慮すること。また、図表の題や説明はワードで、本文とは別頁に添付する。なお、掲載された論文等の著作権は、日本組織適合性学会に属し、インターネットを通じて電子配信されることがあります。

1.2. 原著論文

会員からの投稿を原則とするが、編集委員会が依頼することもありうる。日本語、英語を問わない。最初の一頁はタイトルページとし、タイトル、著者名、所属、脚注として代表者とその連絡先(電話、FAX、E-mail、郵便番号、住所)を記す。タイトル、著者名、所属は次の様式にしたがう。

Nucleotide sequence for a Cw8 subtype, Cw8N, and its association with HLA-B alleles. Fumiaki Nakajima¹⁾, Yoshihide Ishikawa²⁾, Junko Nakamura¹⁾, Toshio Okano¹⁾, Chieko Mori¹⁾, Toshikazu Yokota¹⁾, Ling Lin^{2) 3)}, Katsushi Tokunaga¹⁾ and Takeo Juji¹⁾

- 1) Kanagawa Red Cross Blood Center, Kanagawa, Japan
- 2) Department of Research, Japan Red Cross Central Blood Center, Tokyo, Japan
- 3) Department of Transfusion and Immunohematology, University of Tokyo, Tokyo, Japan

HLA-Cw8 のサブタイプ “Cw8N” の塩基配列および

HLA-B 座との関連分析

中島 文明¹⁾, 石川 善英²⁾, 中村 淳子¹⁾, 岡野 俊生¹⁾, 森 知恵子¹⁾, 横田 敏和¹⁾, 林 玲^{2) 3)}, 徳永 勝士²⁾, 十字 猛夫²⁾

- 1) 神奈川県赤十字センター, 検査課,
- 2) 日本赤十字中央血液センター, 研究一課,
- 3) 東京大学医学部附属病院, 輸血部,

内容は二頁目よりはじめ、要約 (Summary), はじめに (Introduction), 材料と方法 (Materials and Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 参考文献 (References) の順に記載する。また、要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを加える(英文の場合には英語の Key words を加える)。脚注は適宜、設けてもよい。日本語で投稿の場合には、末尾に英語のタイトル、著者名、所属(様式は上述に従う)、英語の要約と英語で5語以内の Key words をつける。枚数に特に指定はないが、速報的な短報(全体で、2,000~3,000字、出来上りA4版で2~4枚程度)を中心とする。もちろん、full article も歓迎する。また、新対立遺伝子、日本人に認められた希な対立遺伝子に関する報告も受け付ける。なお、参考文献 (References) の記載については、下記 1.5 を参照すること、オリジナル1部にコピー3部を添えて、編集長宛(下記3参照)に送付する。

1.3. 総説、シリーズその他

編集委員会からの依頼を原則とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語を原則とする。タイトル、著者名、所属は上記 1.2. の通りにしたが、要約と要約の末尾に日本語で5語以内のキーワードを添える。その他の体裁は自由とするが、構成がいくつかの章、節などから成る場合には、次の番号に従い、適当な見出しを添える。

1. 2. 3. 4. ……

1.1. 1.2. 1.3. ……

1.1.1. 1.1.2. 1.1.3. ……

脚注は適宜，設けてもよい。なお，参考文献 (References) の記載については，下記 1.2. を参照すること。

1.4. 校正

校正は編集委員が行い，特別な場合を除き，執筆者は校正を行わない。

1.5. 参考文献

参考文献は，本文中に数字で，例えば (3)，の様に表示し，末尾にまとめて，次のようなスタイルで記載する。ただし，著者名，または編集者名は，筆頭 3 名まで記載し，以下は省略する。

1. Komatsu-Wakui M, Tokunaga K, Ishikawa Y, *et al.*: Wide distribution of the MICA-MICB null haplotype in East Asian. *Tissue Antigens* **57** (1): 1–8, 2001.
2. Tokunaga K, Imanishi T, Takahashi K, *et al.*: On the origin and dispersal of East Asian populations as viewed from HLA haplotypes. *Prehistoric Mongoloid Dispersals* (eds. Akazawa T, Szathmary

EJ), Oxford University Press, p. 187–197, 1996.

3. 徳永勝士，尾本恵市，藤井康彦ら：HLA に連鎖した遺伝標識に関するハプロタイプ調査，移植，**18**: 179–189, 1983.
4. 徳永勝士，大橋 順：疾患遺伝子の探索．わかる実験医学シリーズ「ゲノム医学がわかる」(菅野純夫編)，羊土社，p. 48–55, 2001.

2. 別刷

原著論文については，別刷は有料とする。その費用は部数，頁数による。

3. 原稿送付先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科
人類遺伝学分野
日本組織適合性学会誌 MHC
編集長 徳永 勝士

TEL: 03-5841-3692

FAX: 03-5802-2907

E-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp

編集後記

私は、20年間勤務していた防衛医科大学校を退官し、縁あって4月から新設の日本薬科大学に移ることになりました。移ってから、早いものでもう8ヶ月が経過しようとしている。防衛医科大学校では、輸血・移植免疫学を中心とした臨床的な講義を4年生と6年生に週2コマ(1コマは90分)ほど行ってきたが、新しい大学では、今までの教科と異なる専門基礎科目の生物学を担当することになった。新しい学部・新しい教科の教育、新しいスタッフということで何もかも新しく、また大学のシステムもできていないことから、この8ヶ月間、試行錯誤を繰り返しながら突っ走ってきた。高等学校における生物の教育は、私が学んだ時代からみると考えられないほど様変わりし、日本薬科大学では生物を全く学んだことのない学生が、実に30%を超えている(私たちの時代は必須だったので、ほぼ0%であった)。また、生物は生物IBとIIに別れ、生物IBを学んだ生徒は70%弱であるのに対し、生物IIを学んだ学生は僅か40%弱という現状である。このような状況で大学における生物学の授業は、我々が大学で学んだ時代と明らかに事情が異なることが想像頂けると思う。薬学部での教科は、化学が中心と思われているかもしれないが、現在では生物系が半数以上を占めている。そのため、専門課程で生物系の授業に学生がついていけるように日々基礎学力の向上を図っている。しかしながら、高校で生物を学んでいない学生が多いことから、高校の生物を取り入れた授業にならざるを得ないのが実情である。また、これだけでは不十分なことから、それ以外にも補習授業を5時限目を実施ししなければならず、教員としてはかなり多くの時間を授業関係に費やさなければならぬ。3学科あるため、授業が週に3コマと補習が1コマの計4コマを実施している。これらの準備に費やしている時間は相当であり、このような状況が

いつまで続くかと思うと、今後の研究活動に不安を感じざるを得ない。この大学にきて生物学を教えるようになって、改めて感じていることは、基礎学力の大切さである。やはり、基礎という土台があってはじめて色々なことがその上に積み重ねられるのである。そして、しっかりと築いた安定した土台は、どんな状況におかれても崩れることがないのである。すなわち、自分の知識がしっかりと根を下ろしてやがて太い幹ができ、そしてそこに色々な枝葉がつれるのであると思う。読者の先生方も今一度ご自身の基礎となる根とそこからできた研究の幹、そして今研究されている枝葉を見つめ直しては如何でしょうか。

小林 賢

「MHC」バックナンバー

一冊¥2,000にて購入できます。学会事務局までお問い合わせ下さい。なお在庫僅少の号もありますので、万一品切れの際にはご容赦ください。

入・退会、所属・住所・連絡メールアドレス変更

各種の申請は、学会事務局で受け付けます。

日本組織適合性学会事務局

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-3-10

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野内

電話 03(5280)8054

FAX 03(5280)8055

電子メール jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp

日本組織適合性学会ホームページ

学会活動に関する情報やHLA遺伝子の塩基配列情報が利用できます。

<http://square.umin.ac.jp/JSHI/mhc.html>

<http://jshi.umin.ac.jp/mhc.html>

MHC

Major Histocompatibility Complex

Official Journal of Japanese Society for Histocompatibility and Immunogenetics

2005年1月31日発行 11巻3号, 2005

定価 2,000円

発行 日本組織適合性学会(会長 木村 彰方)

編集 日本組織適合性学会編集委員会(編集担当理事 徳永 勝士)

平成8年7月24日 学術刊行物認可

日本組織適合性学会事務局(事務担当理事 十字 猛夫)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子病態分野内

印刷・研究社印刷株式会社

〒352-0011 埼玉県新座市野火止7-14-8